

新型インフルエンザについて

新型インフルエンザは、これまで存在していない全く新しいインフルエンザウイルスによって起きる病気です。原因は、鳥インフルエンザウイルスです。鳥インフルエンザウイルスが変化して人から人へ感染する新しいタイプのウイルスになったものを新型インフルエンザといいます。新型インフルエンザウイルスとなるウイルスの型は、毒性の強いH5N1型の可能性が高いとされています。

新型インフルエンザ（H5N1）の特徴

- ① 感染力がとても強い →新型インフルエンザは、たった1週間で世界中に広がる
- ② 新しいウイルスなので誰も免疫を持っていない →ウイルスにさらされたら感染率はほぼ100%
- ③ 季節性のインフルエンザ（通常に流行しているインフルエンザ）のようなワクチンがない
→感染が急速に広がることが予測される
- ④ 毒性が強い →重症化するケースが多く、死亡者も多くなることが予測される
- ⑤ 高齢者よりも10～20代の若者のほうが重症化しやすい

インフルエンザと新型インフルエンザ（H5N1）の違い

インフルエンザ	新型インフルエンザ（H5N1）
<ul style="list-style-type: none">・ 冬になると流行・ ウイルスは今まで流行したウイルスが少し変化したもの	<ul style="list-style-type: none">・ 流行の季節はなく、冬以外にも流行する・ 鳥インフルエンザウイルスが変化して、人から人へと感染するようになったときに発生する新しい病気
<ul style="list-style-type: none">・ 乳幼児、高齢者が重症化しやすい	<ul style="list-style-type: none">・ 10～20代の若者が重症化しやすい
<ul style="list-style-type: none">・ 高熱や喉の痛みなどが数日続き主に呼吸器症状が見られる。安静にしていると自然に治ることが多い	<ul style="list-style-type: none">・ 高熱や咳以外に全身のさまざまな器官から出血をおこし重症化し、致死率も高いと考えられている
<ul style="list-style-type: none">・ ワクチンの予防接種で発病・重症化の防止が可能	<ul style="list-style-type: none">・ 適合するワクチンは、出現した新型インフルエンザのウイルスを使ってつくるため流行前に作って予防接種しておくことが出来ない

新型インフルエンザの感染経路

- 飛沫感染：** 感染者のくしゃみや咳に含まれるウイルスを吸い込むことで感染する
- 接触感染：** 感染者の鼻汁や唾液のウイルスが手を介して机、ドアノブ、パソコンのキーボード、つり革などに付着してそれに触れることによって感染する
- 空気感染：** 冬季や、エアコンの利いた室内（学校・オフィス・映画館・電車・バス・飛行機）等の乾燥した空間を漂っているウイルスを吸い込むことで感染する

新型インフルエンザ予防の基本

海外のどこかで新型インフルエンザの発生が確認された場合、世界中に1週間のうちに広がりその後早ければ1〜2日、遅くとも3〜5日後には日本国内でも感染爆発が起こるとされています。新型インフルエンザが発症し、流行しはじめたら出来るだけウイルスに接触しないようにすることが重要です。

つまり外出することを一切取りやめることです。

- * **流行時には学校は休校になります。**また、人が集まる集会やイベントは中止されることになると予測されます。この期間の外出はウイルスに接触する可能性が高く、大変危険です。学校のみならず、アルバイト、サークル、買い物等自宅外での活動を一切中止して人との接触(症状のない相手でもすでに感染しているかもしれません)を避けることがなにより重要です。
- * 食料品、生活用品の供給も途絶え、店頭から物がなくなる可能性があります。十分すぎると思われる程(1〜2ヶ月分位)準備しておきましょう。
- * どうしても外出をしないとならない場合には、電車、バスの車内は非常に感染しやすく危険です。ので徒歩、自転車、自家用車等の移動手段を選択してください。
- * マスクを必ず着用し、目的地に到着したとき、自宅に帰宅したときには石鹸をしっかりと泡立てて指の間、爪の裏、手首の上まで丁寧にこすり洗いをしてください。

上記の予防策を行っていても感染は完全には防げません。

ですから流行時期には自宅から外へ出ないですむように今からしっかり準備を整えておきましょう。

新型インフルエンザ(H5N1)の想定される症状

新型インフルエンザに感染すると、2〜3日の潜伏期間の後に突然高熱が出ます。倦怠感、筋肉痛や関節痛、下痢や腹痛などを伴う場合もあります。その後、数日以内に息苦しさ、激しい咳、呼吸困難などの肺炎症状が出て、急激に悪化するケースが多いようです。

新型インフルエンザの流行期間は毎朝体温を測り、以下の症状をチェックしましょう。

健康チェックポイント

高熱がある(38℃以上)	
倦怠感がある	咳
関節痛	筋肉痛
嘔吐	下痢・腹痛

※ 熱があり、そのほかにもあてはまる症状がある場合には新型インフルエンザの感染が疑われます

もしも感染が疑われたら

病院に行ってはいけません！

新型インフルエンザは短期間でウイルスの感染が広がるため、医療機関には感染が疑われる人や感染者が一斉に押し寄せます。その結果、病院に行ったとしても処置をうけることが出来ず、放置されることもありえます。患者があふれると入院ベッドが少ないため、入院はほとんど不可能です。恐らく、ほとんどの人が抗インフルエンザ薬（タミフル）を処方され自宅療養することになります。また、感染患者が多数集まるため、病院自体が危険な場所となります。感染者のウイルスは自覚症状が出る前から体外に出されています。その時期に受診することで病院の待合室や診察室、トイレなどでウイルスをまき散らすことになり、感染を拡大させてしまいます。

なるべく早く最寄りの保健所に電話をします。（電話番号を今のうちに調べておいてください）

直接出向いてはいけません。

保健所からは感染症対策の設備が整っている指定病院の受診、あるいは保健所の係官の自宅訪問などが指示されますので、それに従います。

家族の誰かが感染したら（そして自宅療養となったら）

家族間で感染しないことが重要です。そのためには

- * 家の中でも全員マスクを着用します。
- * 感染者のいる部屋を限定します。（換気を頻回に行います）
- * 世話をする人はビニール手袋（使い捨て）、ゴーグルを使用し素手で感染者に触らないようにします。（手袋を外した後もきちんと手洗いをします）
- * 使用したマスク、ティッシュなどはビニール袋に入れて密封して捨てます。
- * 感染者の触れたところ、触れた物はすべて消毒をします。
（熱湯消毒：80℃以上で10分、ハイター・ピューラックス消毒、アルコール消毒）
- * タオルは共用せず、入浴の際に感染者は湯船を使用しないでシャワーの使用のみとします。

確かな情報収集を

大学から学生への連絡事項はホームページ、@Kで各自確認をしてください。

- ・ 国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)
- ・ 厚生労働省 新型インフルエンザ対策関連情報
(<http://www.gctv.ne.jp/~kowa-ahp/asaiclinic/12WhatsNew/newinfulqa.html>)
- ・ 外務省海外安全ホームページ (<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/>)
- ・ WHO 鳥インフルエンザ関連 (<http://www.who.or.jp/alertj.html>)